

安心でできる葬儀社とは
規模より地域での信頼性。
心のこもったケアが大切

「葬儀とお墓の問題に心をこめて対応してくれるのがいい葬儀社」と語るのは葬祭コンサルタントの二村祐輔氏。全国から「地域に根付いた安心でできる葬儀社」を選んでいただいた。

青森県 ① 松江造花仏壇店

社歴の長い社員が担当してくれる安心感。葬送ききょう館は金木斎場に隣接

葬儀・仏壇関連のすべてが揃う創業明治38年の老舗。金木斎場前には葬送ききょう館が建てられた。その玄関ホールには観音様が祀られており、社員は毎日手を合わせ、敬う気持ちを忘れない。

青森県五所川原市 TEL:0173-53-3344
 URL:http://matue.jp

秋田県 ② 姉妹ソーイング

すべてが手作り日本製。ワンランク上の逸品、死衣装ドレス

今の高齢女性は経帷子より、自分らしい死衣装での旅立ちを望んでいる。そこで優雅にデザインしたのが「天竺服」。見た目だけでなく、再生儀礼である産着の意味も持っている。

秋田県横手市 TEL:0182-37-3581
 URL:http://www.tenshifuku.com/

富山県 ③ 佐々木博善社

大きな屋根が特徴の特別な大ホール。大きな葬儀も家族葬も

山裾にできた、広いロビーと大きな屋根をもつサンブレアホール。大ホールでありながら、自社社員である女性スタッフにより、地域性に合わせ、心の通う葬儀を行っている。

富山県中新川郡上市町
 TEL:076-473-4848 (サンブレアホール)
 URL:http://www.net3-tv.net/~sunprayer/

栃木県 ④ たなべ典礼

全国に先駆けて、会報紙「智の会通信」を発行。家族経営で地域密着の葬儀社

母と息子夫婦3人が中心の、家族対応が特徴。オリジナル会報はすでに10年前から定期発行。受注のほとんどがリピーターで、地元信用度は抜群。地域に根ざした良質な業務で「くちこみ旅行」が最多。

栃木県佐野市
 TEL:0283-22-1507

東京都 ⑤ スペース アデュ

時間と空間の使い方は自由。多様化時代のホテル型葬祭館

わが家のリビングにいる雰囲気葬儀の一切ができるアットホームな雰囲気葬祭館。大人数の葬儀にも、祭壇なしの直葬にも対応できる葬祭館として、都会派の遺族がよく利用する。

東京都台東区 TEL:0120-46-5521 (スペース アデュ)
 URL:http://www.s-adiou.com/

千葉県 ⑥ 安宅

家族葬のための「心の庵」。茶室でしのぶ故人の思い出

千葉県でも屈指の安心でできる葬儀社。葬儀の形態に合わせて4つのホールから選べるのが特徴だ。家族葬のためにつくられた茶室を備える和の空間「道順庵」は人気が高い。

千葉県八千代市 TEL:0120-76-9494
 URL:http://www.ataka.co.jp/

神奈川県 ⑦ 神奈川こすもす

究極のシンプル施行「ダビアス」を提言。現状の直葬問題に対応

最近の直葬傾向では、遺族の悔恨が深刻な問題。ここでは適切な安置と保管設備を有して、シンプルな葬送を行っている。何より故人の尊厳を守ることが第一。そのためにスタッフの資質向上は、社是として日々研鑽している。

営業本部: 神奈川県川崎市 TEL:0120-096-562
 URL:http://www.kanagawacosmos.com/

静岡県 ⑧ としかわ

お葬式何でも相談室を設置。地域密着型で親身に対応

三島市役所の隣に位置していることもあり、高齢者の相談が多い。看板代わりのお地蔵さまは季節ごとに衣装を替えて人びとの目を惹きつける「わが町に欠かせない葬儀社」だ。

静岡県三島市 TEL:0120-100-182
 URL:http://www.tokikawa.com/

岐阜県 ⑨ 清香苑

社会貢献型葬祭業を目指し「ISO9001」の認証も取得

「儀式・儀礼の文化を大事にしたい」というのが小栗眞理子社長の信念だ。地域文化の担い手となるため、社長業の傍ら、東京の大学に通い、ホスピタリティを学んだ。現在はホスピタリティに関するセミナーの講師も務める。

岐阜県可児市 TEL:0120-62-3171
 URL:http://www.union-jp.net/

愛知県 ⑩ スズソウ

住宅街の中の家族葬専用会館。囲炉裏を囲んでゆっくりと事前相談できる葬儀サロン

家族葬専用会場で施行のほか、遺品整理や布団の供養など細やかな配慮が行き届いていて頼りになる。葬儀社を天職だと信じている社長は自ら社是をつくり、社員研修もこなす。

愛知県名古屋市中区 TEL:0120-758-363
 URL:http://www.suzusou.co.jp/

奈良県 ⑪ オフィスシオン

古都・奈良から情報を発信し家族葬や直葬の啓発を推進

消費者視点の家族葬をプロデュース。NPO「手元供養協会」と連携して積極的な啓発運動を展開。メディアも上手に活用しており、エンディングセミナーは人気がある。

奈良県奈良市 TEL:0120-365-442
 URL:http://www.office-sion.jp/

岡山県 ⑫ いのうえ

創業97年の地域貢献型企業。県内各地12箇所のホールを持つ

岡山県でエヴァホールと言えば斎場の代名詞のようなもの。また茶屋町にある家族葬のファミリエは家族の絆を大切にしたい温もりあるホールだ。老舗の責任として「葬儀」という儀礼文化の発展に貢献する企業だ。

岡山県岡山市/倉敷市/総社市
 TEL:0120-05-1000 (エヴァホール) TEL:0120-00-3020 (ファミリエ)
 URL:http://www.everhall.co.jp/

広島県 ⑬ 多鶴花

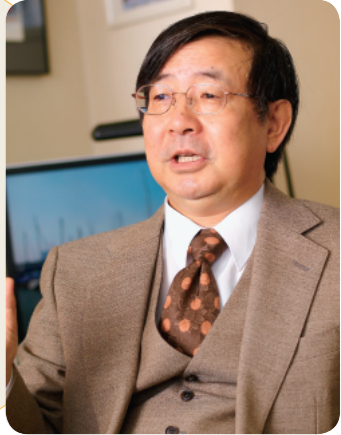
生花店の視点で葬儀を見直す形式より心遣いを大切に

「小さな葬式のほうが遺族の心情が伝わってくる」という多鶴花の女主人。墓参客の相談にのっているうちに、近くの寺の本堂を借りて簡素で心温まる葬儀も演出するようになった。

広島県広島市
 TEL:082-231-1890

二村氏が選んだ日本の葬儀社

故人を見送る最後の儀式として、葬儀は遺族にとっても重要なもの。いざという時のために、親身になってくれる葬儀社を知っていれば安心だ。そこで、優良な葬儀社を、二村氏に選んでもらった。



二村祐輔氏
 日本葬祭アカデミー教務研究室代表として、葬祭のコンサルティングや、講演活動などを展開。葬儀社に約18年間勤務し、2000以上の葬儀にかかわる。「家族のための現代葬儀大辞典」(日東書院本社)など多数の著書がある。

Information

葬祭カウンセラー養成講座
 <一般対象・事業者対象>
 葬祭カウンセラー養成講座、第30期生を募集
 東京会場 2日間コース
 受講日:6月19日(土)、20日(日)
 受講料:50,000円(教本・昼食・認定証)
 申込は下記問い合わせ先まで。

P.I.P 認証取得セミナー
 葬祭関連事業者に向けて、個人情報保護認定機構、NPO日本葬祭情報管理協議会が認定するP.I.P 認証(プライベート・インフォメーション・プロテクト)取得セミナー開催
 受講日:6月4日(金) 場所:東京文化会館(予定)
 問合せ:(株)トランスブレイン06-6225-1094(山本)

問い合わせ先
日本葬祭アカデミー教務研究室
 東京都千代田区三番町7-1 朝日三番町プラザ503
 TEL:03-5215-5767 FAX:03-5215-5768
 URL:http://www.jfaa.org/

葬儀の多様化、簡素化は急速に進んでいる。中でも関心が高いのは近親者だけで行う家族葬である。身内だけで故人をしのぶのが本来の葬儀のあり方だと考える人が多くなっているからだ。

「規模よりも中身が大事。こんな葬儀をしたい」という要望に対して適切なアドバイスができる葬儀社がいちばん頼りになります。葬儀セミナーなどを積極的にやって新しい葬儀のあり方を提案してくれるところ、料金など透明性の高いところ、お墓や供養のアフターケアもしてくれるところなどの条件で絞っていくと、最終的に行き着くのは地元根付いた、顔が見える、聞く耳をもった葬儀社です。

上図では、二村氏に全国の葬儀社より地域密着型のサービスを提供し、町の人びとに信頼されている「安心でできる葬儀社」13社を紹介していただいた。上記葬儀社にはP.I.P 認証を取得している企業も多く、個人情報保護の面でも安心だ。

聞く耳を持つ葬儀社は地域に根付いている

者の関心は葬儀後の墓の問題にも向いており、墓や永代供養にかかる費用や、散骨についてなど、葬儀と墓の話はワンセットで考えられている。二村氏が、そうした質問に答えるときに必ずアドバイスしているのが「エンディングノート」づくりである。終末期に自分がしてほしい介護、葬儀、お墓の問題をメモしておく遺言書に近いもので、相続についても頭の中の整理ができるようになる。



昔、喪主は地域のしきたりや寺との関係を大事にして葬儀を行ってきた。しかし、今の喪主は消費者としての目で葬儀を見直し、形式的ではなく、コストのかからない葬儀を行うようになってきている。

「十数年前、私が一般消費者の目で葬儀を見直すべきだと言ったとき、お寺や葬儀社はびっくりしていました。今話題の家族葬や直葬はまさに喪主の消費者感覚が求めている新しい形です。簡素で小規模な手づくりの味がする葬儀のほうが質は高いと考えるようになっていきます」

そう語るのは、葬儀セミナーの講師としても活躍中の二村祐輔氏だ。

「各地で行政などが主催する葬儀セミナーはどこも超満員で、過去に総勢20万人を動員。将来の自分の葬儀について不安を抱える高齢者がいかに多いかということですね」

これからの葬儀社は、負担をかけたくない親の心、きちんとしてあげたい子供の心に配慮した新しい形の葬儀を演出できなければ生き残ることはできない。

二村氏のセミナーでは、どんな葬儀社が安心できるのか、費用はいくらかかるのかという質問が必ず出る。だが、消費